

② 建築法規Ⅰ					
担当教員	佐藤 静		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした、基本的な法規の知識と設計の考え方を講義を通して学ぶ。 1. 建築施工において、法律上の規制、構造基準、申請手続き等の必要性を学ぶ。 2. 案件と規制に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解・習得する。				
学習目標 (到達目標)	人々の生命・健康などを守るため建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした基本知識を習得し建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目指すとする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書名：図説やさしい建築法規・著者：今村仁美・田中実都 発行所：(株)学芸出版社、建築関係法令集 発行：(株)総合資格学院				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	①建築基準法の概要 ②法令用語の読み方	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する分類・種類、形式を理解・説明できる 準備学習：教科書①の学習			
2	用途の基本定義 ①建築物、建築設備、居室、主要構造部、大規模の修繕 ②換気装置、特殊建築物、指定工作物	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する条件、規制を理解・説明できる 準備学習：教科書①の学習			
3	建築手続き ①建築申請を必要とする建築物。 ②申請検査、完了検査、建築主事と ③特許庁長官、指定建築検査機関 ④建築主、設計者、施工者、建築主事等の役割	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～③の申請に関わる手続き・検査が理解・説明できる 準備学習：教科書①の学習			
4	敷地、面積、高さ等の規定 ①建築物の敷地、敷地面積、建築面積、延べ面積。 ②建築物の高さ、建築物の階数	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の申請に関わる手続き・検査が理解・説明できる 準備学習：教科書①の学習			
5	採光に関する基準 ①室内環境と安全、居室の採光、有効採光面積	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①の居室に採光の必要性が理解・説明できる 準備学習：教科書①の学習			
6	換気に関する基準 ①室内環境と安全、居室の換気。 ②アスベスト規制、シフトハウスに関する基準	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の居室に換気の必要性が理解・説明できる 準備学習：教科書①の学習			
7	構造に関する基準 ①居室の天井の高さ、床の高さ ②地盤の異なる各戸の界壁に関する基準	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の条件、規制が理解でき計算ができ説明できる 準備学習：教科書①の学習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験・出席率評価点の合計とする。 期末試験70%、小テスト20%、出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。		建築法規は、建築全てにおいて関係しており「法」を知ることで、他の科目と関連性をもって学ぶ必要性がある。法規の基本を理解し、設計への応用を促す。また、定期的に小テストを行い習熟状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかり理解させる。習熟度を上げるために、正確率の高い回答については、十分な解説を行う			
実施担当教員の担当 学年設計に10年採れる					

② 建築法規Ⅰ					
担当教員	佐藤 静		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした、基本的な法規の知識と設計の考え方を講義を通して学ぶ。 1. 建築施工において、法律上の規制、構造基準、申請手続き等の必要性を学ぶ。 2. 案件と規制に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解・習得する。				
学習目標 (到達目標)	人々の生命・健康などを守るため建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした基本知識を習得し建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目指すとする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説やさしい建築法規・著者：今村仁美・田中実都 発行所：(株)学芸出版社、 ②建築関係法令集 発行：(株)総合資格学院				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	都市計画、道路に関する規定 (都市計画区域内の概要、道路の定義) ①都市計画制度の概要、 ②道路の種類、基準等 ③練習問題	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の学習			
2	用途地域に関する規定 (用途地域の種類、建築物の制限等の規定) ①用途地域の目的、建築物の制限が理解でき説明できる。 ②練習問題	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①の法に関する目的、制限を理解・説明できる 準備学習：教科書①の学習			
3	面積の制限 (敷地に対する面積の制限、緩和の規定) ①容積率の規制、緩和、建ぺい率の復元と計算 ②練習問題	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①の法に関する規制緩和、計算が説明できる 準備学習：教科書①の学習			
4	高さの制限 (道路、隣地境界に対する高さの制限、規定) ①道路、隣地境界に対する高さ、計算 ②用途地域による高さ制限、計算 ③練習問題	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する制限、計算が説明できる 準備学習：教科書①の学習			
5	建築設備 ①建築設備の概要 ②練習問題	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の学習			
6	防火に関する基準 (防火、火災に関する構造基準) ①防火、火災に関する構造、設備の概要 ②設備のおよそのある部分の計算 ③練習問題	防火、火災に関する構造、設備の概要が理解でき設備のおよそのある部分が計算できる。 理解度のチェック、練習問題で確認。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験・出席率評価点の合計とする。 期末試験70%、小テスト20%、出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。		建築法規は、建築全てにおいて関係しており「法」を知ることで、他の科目と関連性をもって学ぶ必要性がある。法規の基本を理解し、設計への応用を促す。また、定期的に小テストを行い習熟状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかり理解させる。習熟度を上げるために、正確率の高い回答については、十分な解説を行う			
実施担当教員の担当 学年設計に10年採れる					

② 建築法規Ⅱ					
担当教員	西原 政安		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした、基本的な法規の知識と設計の考え方を講義を通して学ぶ。 1. 建築施工において、法律上の規制、構造基準、申請手続き等の必要性を学ぶ。 2. 案件と規制に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解・習得する。				
学習目標 (到達目標)	人々の生命・健康などを守るため建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした基本知識を習得し建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目指すとする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①関係法令集 (法令編) 発行：(株)総合資格学院 ②参考書：図説やさしい建築法規・学芸出版社				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	防火地域 (準防火地域) 内に関する建築物の規定 ②22条地域、延焼のおよそのある部分について	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②防火地域内、準防火地域内における建築物の制限、22条地域、延焼のおよそのある部分の理解・説明できる 準備学習：教科書①②の学習			
2	建築基準法、別表	基準法、別表1～4について説明。 (別表について、関連法の確認・理解でき説明できる。)			
3	構造強度 (木造) ①木造建築物の構造強度に関する規定。 ②柱、筋かい(耐力壁)の説明。	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②木造建築物の柱の大きさ、筋かいの必要性が理解・説明できる 準備学習：教科書①②の学習			
4	構造強度 (鉄骨造、鉄筋コンクリート造) ①柱造、RC造の使用材料。 ②強度、構造等	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②鉄筋コンクリート造等の材料、構造の概要等が理解・説明できる 準備学習：教科書①②の学習			
5	防火構造、防火区画等 (防火、準防火建築物の防火区画) ①建築物の防火性能、用途、規模等による防火区画、種類	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②建築物の防火性能、用途、規模等による必要な防火区画、種類等が理解・説明できる 準備学習：教科書①②の学習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験・小テスト・出席率評価点の合計とする。 期末試験70% 小テスト20% 出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。		法の確認・チェックは、法の根拠・条項ではなく、関連する「法、令、省令」の全てを調べる必要がある。従って、その関連する条項を早く確認できる事が大切である。定期的に小テストを行い習熟状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかり理解させる。習熟度を上げるために、正確率の高い回答については、十分な解説を行う			
実施担当教員の担当 設計事務所等で建築設計、監理に7年従事					

② 建築法規Ⅲ					
担当教員	西原 政安		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした、基本的な法規の知識と設計の考え方を講義を通して学ぶ。 1. 建築施工において、法律上の規制、構造基準、申請手続き等の必要性を学ぶ。 2. 案件と規制に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解・習得する。				
学習目標 (到達目標)	人々の生命・健康などを守るため建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした基本知識を習得し建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目指すとする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①書名：建築関係法令集 (法令編) 発行：(株)総合資格学院 ②(参考書)：図説やさしい建築法規・学芸出版社				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	避難施設等 (廊下、避難階段、昇降設備、非常用の照明、出入口) ①廊下、階段等の必要幅、種類、構造。 ②昇降設備、非常用の照明、出入口の設置基準、出入口構造の理解と計算。 ③練習問題	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の学習			
2	特殊建築物等の内装 (制限を受ける特殊建築物、建築物の内装) ①内装材の種類の理解と用途、構造等。 ②内装材の種類等が ③練習問題	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の学習			
3	建築士法に関する規定 ①建築士のできる設計・監理、業務	方法：教科書、資料を使って説明、解説の添字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の学習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験・小テスト・出席率評価点の合計とする。 期末試験70% 小テスト20% 出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。		法の確認・チェックは、法の根拠・条項ではなく、関連する「法、令、省令」の全てを調べる必要がある。従って、その関連する条項を早く確認できる事が大切である。定期的に小テストを行い習熟状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかり理解させる。習熟度を上げるために、正確率の高い回答については、十分な解説を行う			
実施担当教員の担当 設計事務所等で建築設計、監理に7年従事					